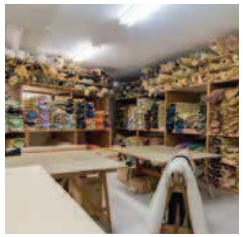
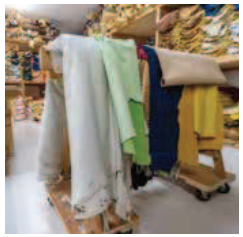
石居みさお皮革

販売代理店：中村貿易株式会社

手作り作家からプロの方までが通う、ピッグスエード専門ショップ





革1枚からオンライン販売も

コロナ期間中に、目の前に広大な専門職大学もオープンし、若い人たちも行き交うようになった曳舟界隈。石居みさお皮革販売代理店「中村貿易」は、この大学のすぐ目の前に位置しています。若手クリエイターのアトリエやおしゃれなコーヒーショップなど、近隣には次々と新しい風が起こっています。

このエリアで、ピッグレザーやコートレザーなどの小判ものを中心に、1枚から気軽に購入できるオンライン販売を早くから行ってきた貴重な存在として知られています。

色鮮やかなピッグスエードは、ハンドメイド作家やクリエイターの方々に、家庭用ミシンなどでも縫える扱いやすい素材として人気が高まっています。プレーンなものだけでなく、フラワー柄、箔加工、撥水加工、またユニークなものでは木目調の加工など、さまざまな革のバリエーションを揃えています。

革をカタチにすることでイメージを喚起

専務取締役の中村伸一さんによると、「常に80色の在庫ストックがあるので、『1枚だけ』でも一同ロットの同色を20枚」という発注もお受けしています。200枚ずつ染めるため、色ブレが少ないのもご好評いただいている点だと思います。」

また、2階フロアには職人が常駐するアトリエを構えて、お客さんの声を聞きながら製品化も行っています。

「ユーザーは1枚の革のままだとイメージしにくいので、バッグや革小物など立体にすることで、ご自身が作りたいものとすり合わせるサポートもしています。たたき台があることで、コミュニケーションも取りやすくなり、『そういったことがやりたかった』というお声もいただいています」と中村専務は笑顔で話してくれました。最新情報はSNSにアップされ、とっておきの限定素材が紹介されることもあるとか。要チェックです。

Recommend

超撥水スエード
製造工程で撥水剤を加え半永久的に水を浸透させない

スエード
常時80色の在庫があり1枚から販売中！

販売代理店 **中村貿易** 株式会社 MAP 01

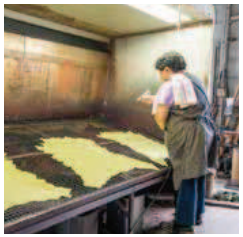
石居みさお皮革販売代理店：中村貿易株式会社
〒131-0045 東京都墨田区押上3-62-3 中村ビル
電話 03-6657-4440
FAX 03-5247-4080
メール nakamura@abctown.net
HP：https://abctown.net
専務取締役 中村伸一

HP

専務取締役
中村 伸一

株式会社エセカ

他にない『厚手の革』の加工を得意とするファクトリー



馬具、手綱、バッキンなどに不可欠な厚い革

株式会社エセカの社名は、「江澤染革株式会社」の頭文字から取られています。その名の通り、クライアントから持ち込まれた素材に対して、染色、塗装、再なめしといった、繊細な仕上げや後加工を得意としています。

特にエセカには「厚もの」と呼ばれる、厚みのある革素材の依頼が数多くやってきます。特に4～4.5mm厚の牛革の仕上げは、他社で扱うところが少なくなりました。最近ではベルト、馬具、手綱、また工業用パッキンといった特殊な案件が増えています。

「革に取って代わる材料がないものは、必ず残っていくでしょう」と語るのは代表取締役の江澤正喜さん。特に馬具などに使われる革は、手作業で染色を行うことが多く、大変な手間がかかります。それでも「エセカさんに頼むと、仕上がった革が厚いままなのが有難い」という声に喜びを感じているとのこと。

一枚20キロの革を干していく

送られてくる牛革は、背中から半分に割った大きさの「半裁」と呼ばれるサイズ。普通の1.5～1.8mm程度の厚みであってもずっしりとした重さです。けれど、その倍以上の厚さの革は、加工するのも相当な力仕事が必要。

革をドラムに入れて希望の色に染色してから、手作業と機械を使って丁寧に水分を絞り、棒にくぎ打ちしていきます。そこから革を伸ばし、1枚ずつ天井に掛けながら干していくのですが、まだ水分を含んでいるため1枚20キロという重量にもなるのだそう。腕力のある男性が数人がかりで行う仕事ですが、この作業ができるところも減っているとのこと。

「手間がかかる作業ですが、いいものを作りたいという一心で続けています。クライアントから『この厚みが欲しいからエセカに依頼している』と言われることが、嬉しいですね。今後も『革ならエセカ』というものを作っていきたい」と江澤さんは笑顔で話してくれました。

Recommend

カーキパール
タンニン鞣しのボリューミーな山羊革をパール仕上げ

ソフトヌメ
ソフト仕上げで優しい手触りのタンニンなめし（ヌメ）革

株式会社 **エセカ** MAP 02

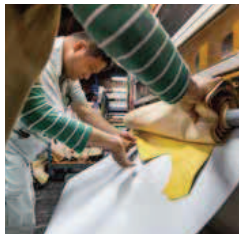
〒131-0042
東京都墨田区東墨田 3-15-19
電話 03-3613-8851
FAX 03-3613-8854
代表取締役 江澤正喜

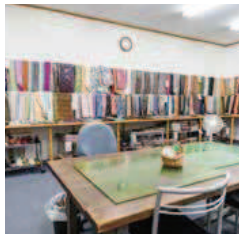
地図

代表取締役
江澤 正喜

墨田革漉工業 株式会社

レザーの既成概念を打破！シーズンレス革製品をヒットに導く技術力





丸だけじゃない!? パンチング

「パンチングというと、連続性のある丸い穴が空いた加工、素材、というイメージがありますが、文字通り、パンチする加工なので、丸だけに限らず、型を替えれば、メッシュのような仕上がりのものもできますよ」と教えてくれたのは、墨田革漉工業会長、佐藤元治さん。

そんなパンチング加工を施したレザーでストールを制作。某クリエイターズブランドでロングヒットとなっています。数えきれないほどのサンプル素材から選び出した型をアレンジし新しいアイテムが生まれました。

三つの毛穴があるピッグスキンは通気性が高いといわれていますが、このストールは放湿性にも優れているので夏でも快適に使えるのがうれしいですね。表面と裏面で色柄を変えられるので、パンチングの型との組合せによって可能性は無限大。つくり手の個性を表現することも可能です。

膨大なアーカイブと豊富な経験社外メンター的ファクトリー

本社向かいの建物の2階はかつて社員寮だったそうですが、現在は膨大な量のアーカイブが所狭しと並ぶショールームに。

プリーツ、箔、エンボス（型押し）、フィルムなどのほか、同社しかできない技術といわれるのがデジタルカッティング。革の表面にナイフで切れ目を入れることで、ファーのような独自の起毛感を実現。ナイフを入れる間隔に変化させ、多彩なニュアンスに。アニマルウェルフェア（動物愛護）の観点からフェイクファーが注目されるなか、食肉の副産物である皮革をベースにしたナチュラルな質感が、これまでにないクリエイティブのヒントとなりそう。

東京コレクション参加メゾンや台東デザイナーズビレッジの卒業生ブランドなどを支えてきた熟練の職人技と的確なアドバイスが好評。困ったときに訪れたい社外メンターのようなファクトリーです。

Recommend

ブロッサムブラウン
エレガントなフラワーモチーフのレザー。

SK30242/636/608
細かい刷毛で白を乗せる事で動きが表現できます。

墨田革漉工業 株式会社 MAP 03
〒131-0041 東京都墨田区八広4-43-4
電話 03-3613-2131
FAX 03-3619-5380
メール skltd@nifty.com
HP：http://www.sumidakawasuki.com/
WEBショップ：http://kawasuki.thebase.in/
HP
取締役顧問 佐藤 功
代表取締役会長 佐藤元治
代表取締役社長 佐藤泰二

代表取締役会長
佐藤 元治

株式会社 墨田キール

若手クリエイターたちの可能性を引き出し、共に伴走するパートナーとして

クリエイターたちへの多角的なアドバイス

墨田キールの工房内には、革に貼るフィルムや箔を巻いた筒の束が、所狭しと並んでいます。革の下地×フィルム×箔の組み合わせで、無限の可能性が広がる加工の世界。自分ならではの素材を求める人にとっては、唯一無二の一枚が生まれる工房と言えそうです。

社長 長谷川憲司さんは、若手クリエイターたちの作りたいものやビジョンを細かくヒアリングして、「それならもっとこうした方が…」とか「こんな加工はどう？」といった多角的なアドバイスをしています。試行錯誤しつつブランドに合った革の開発を通じて、日本国内のみならず、世界へと羽ばたいたクリエイター達も少なくありません。現在墨田キールの工房には、ピッグスキンの良さを活かした革小物ブランドを立ち上げた若者が、技術向上のために通っているとのことです。

東京産の豚革を“プレミアムレザー”に

噂を聞きつけて、エンタメ界のスタイリスト達も駆け込みます。ミュージシャンのステージ衣装や、TVCM撮影の小道具、ミュージカルの特殊なコスチュームなど、他では匙を投げてしまうような案件も墨田キールでは数多くこなしてきました。

「世界には、牛の革や羊の革はたくさんあります。けれど、豚の革というのは実は珍しい存在。海外では肉と一緒に皮も食べてしまうので、豚の皮が産出される日本の原皮は、とても希少性があります。けれど、原皮の9割はそのまま海外へ輸出されてしまうので、この東京産の豚革を“プレミアムレザー”として、もっとブランディングしていきたいと思っています」と長谷川社長は熱く語ります。

今年度は「全日本ピッグスキンタンナーズ工業組合」の理事長を務めており、改めて東京発ピッグスキンの認知度アップを図っていきたい、と長谷川さんは意気込んでいます。

Recommend

ラスティーウォール
手書き風の転写柄。錆びた壁のような個性的なレザーです。

アメ豚
高級カバン、ランドセル等に使われるタンニンなめしのエコレザー

株式会社 墨田キール MAP 04
〒131-0041 東京都墨田区八広 4-9-2
電話 03-3617-8551
FAX 03-3617-8553
メール info@sumidacuir.co.jp
HP：https://sumidacuir.co.jp/
HP
代表取締役 長谷川 憲司

代表取締役
長谷川 憲司

有限会社ティー・エム・ワイズ

最新技術×クリエイティブ つくりたい人の「自分らしさ」を叶える

工場見学やイベント出展で培ったオープンマインド

墨田区で20年ぶりに生まれた新しいファクトリー。入口では社名を記したプレートがお出迎え。「食肉の副産物としてつくる革のサステナビリティが伝わるよう、一枚革をモチーフに、色はグリーンにしました」（渡邊代表）。

そんな想いは学生を対象としたあるアンケートがきっかけ。「革は食肉の副産物ということを知らないとの回答が約半数もあり残念。少しでも知っていただきたくて、工場見学を積極的に受け入れています」（渡邊代表）。

快適に楽しんでいただけるようにと、月に一度、大掃除をするクリーンデーを設定。スタッフ一丸となって取り組む、おもてなしの心がうれしいですね。

SNSでの発信が奏功し、学校のカリキュラムだけでなくレザーファンが地方から訪れたり、海外のインフルエンサーの取材も話題に。このほか、国内最大規模の革製品コンテスト「ジャパンレザーアワード」応募作品展の体験フロア、「日本革市」ショールーム型展示会など、さまざまなイベントに参加。革の魅力を発信しています。

「やってみるよ！」からはじまるポジティブな革づくり

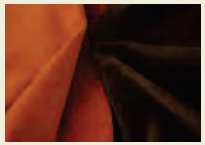
同じく「ジャパンレザーアワード」では作品を応募。業界関係者に高く評価されました。

「撥水加工のスエードや、ラム（羊）革、バッファロー（水牛）、インクジェットプリントを施したレザーなどを用いて、ミリタリージャケットやシューズをつくりました。プリントは写真家の方とのコラボです。制作例、サンプルとして参考にしていただければ」（営業担当加藤さん）。

実際に製品をつくることでノウハウを蓄積。発注する側への理解が深まり、革づくりがさらに進化。最新設備を活用した独自の技術力に磨きをかけます。

初めての案件も「まずは、やってみるよ！」（渡邊代表）とトライ。ポジティブな社風がつくり手たちの「自分らしい」表現を叶えます。

Recommend



羊革スエード防水革
羊革のスエードを防水した革

ラム・ソフトナッパラン
衣料用に作った0.75mmの羊革。
裏面をコーティング。

有限会社 ティーエムワイズ(T.M.Y's)　MAP 05

〒131-0042　東京都墨田区東墨田 3-14-21
電話　03-5630-8189
FAX　03-3612-5111
mail　tmy_s3@yahoo.co.jp
HP：https://www.leatherlabtokyo.com/

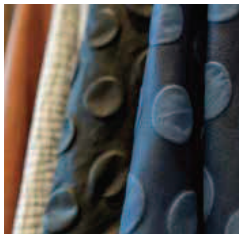
営業　加藤友樹
代表取締役　渡邊 守夫

HP

代表取締役
渡邊 守夫

有限会社ティグレ

東京産豚革の風合いを活かした斬新な企画



東京産豚革の「プレーン」を新たな柱に

創業は1948年。東京の墨田で始まった革づくりを、現在は有限会社ティグレとして行っています。ティグレで特に力を入れているのが、東京産豚革の「プレーン」。今まで50年続けてきた自社開発の豚革下地を世に出すために、スムースとしての「プレーン」を開発しました。

こちらは一般的な豚革に比べて、ふっくらした厚みとコシがあり、適度な柔らかさが持ち味です。革自体が軽いので、もちろんそのまま一枚革として使うこともできます。基本的には表面加工を施さない「素上げ」の革なので、作り手によってさまざまな型押しや二次加工による表現のバリエーションも可能です。「素上げの革はキズが多少目立ちますが、それを風合いとして活かしています。豚の個性として、ケンカをした跡のキズやシワも表面に表れることもありつつ、天然素材だからこそ唯一無二の味わいも伝えていきたい。」と加藤さん。

豚革の素材感を活かした斬新な企画

70年以上前から、代々引き継がれてきた皮革製造の技術をもとに、革の魅力を最大限に引き出す革づくり・製品づくりを行っています。特に塩縮（えんしゅく）加工と呼ばれる「革の縮み（シュリンク）加工」を得意とし、ティグレの代表的な顔である「オースト」はロングセラーとなっています。繊細な花々を表現した「スモールフラワー」は、10年以上オーダーが途絶えないベストセラーになっています。

また定番人気の「マーキュリー」は、豚革に手作業でシワ加工を施し、洗いざらしの雰囲気を醸し出した、自然なシワ感が特長の素材。この温かみのある素材感を活かして、バッグや革小物、インテリア雑貨などの皮革製品に次々と取り入れられています。

代表取締役の加藤文夫さんは、「ますます革に対する情熱が増しています。今後も新しい作品を企画して、提案し続けていくつもりです。ぜひお気軽にご相談ください。」とのこと。

Recommend

東京産豚革（プレーン）
東京墨田で作られたオリジナルの豚革。
革の風合いをそのまま活かし、表面加工をしていない素上げ仕立て。
しっかりした印象の革でコシがある。

マーキュリー
豚革に手作業でシワ加工を施し、洗いざらしの雰囲気を醸し出し、自然なシワ感を表現しています。

有限会社 ティグレ

〒272-0813　千葉県市川市中山1-7-15
電話　047-332-3747
携帯　090-1658-4860
FAX　047-332-3747
メール　tigreleather@gmail.com
HP：https://www.tigre-leather.com

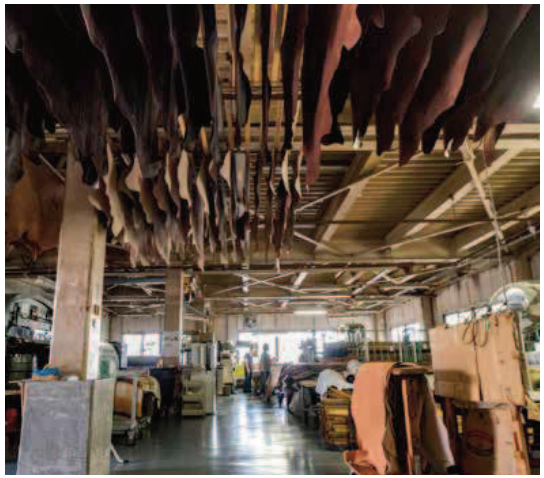
代表取締役　加藤　文夫

HP

代表取締役
加藤 文夫

長坂染革 株式会社

レザーの本場でも出せない味わい、「表情のある革」をつくり出す



AIでは実現できない手仕事を追求

「イタリアや国内の産地でも応えられなかった絶妙なさじ加減を表現できる」と皮革業界、ファッション業界のビジネスパーソンから信頼が寄せられる長坂染革。

植物タンニン鞣しによるヌメ革を中心に染色や加工を施し、その個性を最大限に引き出す「表情のある革」を追求。

ファッションからインテリアまで幅広いジャンルで受注してきた経験と育まれた情熱によって「力強さ」と「繊細さ」という相反するニュアンスを一枚の革に内包させています。

2023年に発表した新作は、連続性のある弧線を描いた革。波、扇ほか見る人のイマジネーションを掻き立てる模様が特徴です。公式インスタグラムアカウントで投稿すると次々とオファーが。「左官屋さんの技法で模様付けしました。革の屈曲に耐えられるようパテを調合。さらに箔貼り、白ワックス加工も可能です」（長坂さん）

伝統をモダナイズすることで革新的な表現に。「コピーアンドペーストという言葉がない時代から小紋柄は受け継がれています。手作業で同じ柄を繰り返し描くときのうねりやゆらぎこそが持ち味。現時点でAIにできないであろう、弊社独自の味わい、表情を重視しています」（長坂さん）

「ヴィンテージ」のように何十年後も残る革を顧客との対話で共創

顧客から持ち込まれた革にもフレキシブルに対応。なかには、ジビエ革（農林業への被害軽減のため有害捕獲された野生動物の革）も。顧客との対話から感覚やテイストといった目に見えない情報を的確にキャッチし、革づくりに反映。「一枚一枚すべて同じではないので真摯に向き合い、前例にとらわれないひと工夫を加えています」（長坂さん）

ヴィンテージ家具のようにパーマネントな魅力と愛着が増す「表情のある革」。手間ひまを惜しまない、実直な企業姿勢そのものです。

Recommend

オイルワックス
多量のワックスを手作業により塗り込み、熱を加えしみこませた革です。

パティーヌアンチック
手作業により染料を手塗りでアンチック柄に仕上げたものです。

長坂染革 株式会社　MAP 06
〒124-0006 東京都葛飾区堀切 1-34-8
電話　03-3691-1161
FAX　03-3691-1512
mail　nagasaka_senkaku@yahoo.co.jp
HP：https://nagasaka-senkaku.jp/
HP
代表取締役　長坂 守康

代表取締役
長坂 守康

株式会社ニシノレザー

ハイクオリティーの素材を生み出す『板張り』乾燥

希少な豚のヌメ革やピュアホワイトレザーを生み出す

下地となるビッグレザーのなめしを得意としているニシノレザー。なかでも植物性タンニンでなめされる豚ヌメ革。は、需要が増えているにもかかわらず、年々作れるところが減少しています。また、子供や肌の弱い人が触れても安全な、ホルムアルデヒドが出ない。純白の革。を作り上げることができるのも、ニシノレザーならでは。

こちらでは、なめした皮を乾燥させる際には、昔ながらの。板張り。という方法で行われています。ふすま大の大きな板に、ヌメ革をピンと張ってクギ打ちし、外気に触れる場所でゆっくりと自然乾燥。こうすることで革が平板になり、製品メーカーも扱いやすくなるという板張りは、品質を左右する重要なプロセスとして続けられています。近隣のタンナーではこの板張りができるところは1社しか残っていません。

生地用の染料を使った“色落ちの少ない”革の開発

「この乾燥方法は20年ほど前から始めました。昔からのやり方であるクギ打ち乾燥は、手間と労力がかかりますが、高品質の革を待つお客さんがいるからこそ続けています。」と西野佳伸社長。

新しい革づくりに余念がない西野社長は、コロナの期間中は研究に没頭し、色落ちしにくい革の開発にも取り組んできました。一般的には、色落ちしない染色処方にすると、風合いや柔らかさが変わる傾向がありますが、西野さんは生地用の染料を使うなど、上手く出来る方法を考えてきました。なめし処方において、特に工夫が必要なことがわかり、現在も継続して開発を行っています。

「布と皮では組成が全く違うので、薬品の分量や温度管理も非常に気を遣います。ブラウン系や赤などは、石けんで洗っても色落ちしない確信はあるが、どうしても黒色が難しい…」とまだ納得がいかないご様子。西野社長は、今日も工場でチャレンジを続けます。

Recommend

エコレザーバリエーション
革の厚さや手触りの希望に応じた下地素材を作ります。

ベジタン＃オリジナル
植物タンニンでフワッとぬくもりのあるなめし。

株式会社 ニシノレザー　MAP 07
〒131-0042
東京都墨田区東墨田 3-5-3
電話　03-3616-4961
FAX　03-3613-4602
地図
代表取締役　西野 佳伸

代表取締役
西野 佳伸